

## 花嫁のパパ (1991)

FATHER OF THE BRIDE

メディア 映画

ジャンル コメディ

製作国 アメリカ

色彩 Color

時間 105分

初公開日 1992/08/08

公開情報 WB

## 【キャッチコピー】

パパにとって、娘は最後の恋人なのです。

## 【解説】

「花嫁の父」のリメイク。原題はオリジナルと同じなのに、40数年たつと、邦題は“パパ”になっちゃた。日本語が乱れてるんでしょうか。ま、それだけ内容が軽くなってる気もしますが。

“パパ”に扮するのは、近頃妙に落ち着いてきてつまらないS・マーティン（好演ですがね）。スポーツ靴メーカーの経営者で、娘をローマ留学に出す余裕があるんですから、まずはお金持ち。奥方（D・キートン。彼女は見事にプチブル・ママの雰囲気）にもいい衣装を着せています。そんな設定に白けちゃうんだけど（嫁入り道具を揃えたりする所も最早“夢”を感じさせるワケでもないし）、可愛い娘（本作でデビューのK・ウィリアムズ）が帰ってきて、いきなり結婚宣言。マーティンの動転ぶりがまずやや愉快。相手は非の打ち所のない資産家の好青年。周囲は大乗り気でパパもしぶしぶ了承。そこからが大変……というのはオリジナルとほぼ同じ。専門のコーディネーターを雇い（これが妙なオカマだけどセンスは確か）、自宅での式に向け着々準備を進めていく張り切りママ。パパはそんな大げさじゃなく、身内だけで気の置けぬ雰囲気……と考えているのだが、あっさり否定されてしまう。オリジナルにも増して女は強し！という気にさせます。彼らには娘より大分年下のクールな息子がいるのだが、それをマコーレーの弟K・カルキン君が演じています。役者はいいけど演出に特筆するものがないタッチストーン映画って所かな。

## 【クレジット】

|       |  |   |
|-------|--|---|
| 監督    | チャールズ・シャイア   | Charles Shyer   |
| 製作    | ナンシー・マイヤーズ<br>キャロル・バウム                                 | Nancy Meyers<br>Carol Baum  |
|       | ハワード・ローゼンマン  | Howard Rosenman   |
| 製作総指揮 | サンディ・ガリン<br>ジェームズ・オール<br>ジム・クルークシャンク                   | Sandy Gallin<br>Jim Cruikshank                                      |
| 共同製作  | シンディ・ウィリアムズ  | Cindy Williams  |
| 脚本    | フランセス・グッドリッチ<br>アルバート・ハケット<br>ナンシー・マイヤーズ<br>チャールズ・シャイア | Frances Goodrich<br>Albert Hackett<br>Nancy Meyers<br>Charles Shyer |
| 撮影    | ジョン・リンドレー  | John Lindley  |
| 音楽    | アラン・シルヴェストリ  | Alan Silvestri  |
| 出演    | スティーヴ・マーティン  | Steve Martin  |

|                  |                       |
|------------------|-----------------------|
| ダイアン・キートン        | Diane Keaton          |
| キンバリー・ウィリアムズ     | Kimberly Williams     |
| キーラン・カルキン        | Kieran Culkin         |
| ジョージ・ニューバーン      | George Newbern        |
| マーティン・ショート       | Martin Short          |
| B・D・ウォン          | B.D. Wong             |
| ピーター・マイケル・ゴーツ    | Peter Michael Goetz   |
| ケイト・マクレガー＝スチュワート | Kate McGregor-Stewart |
| ギビー・ブランド         | Gibby Brand           |